

「食品流通の効率化等に関する研究会」(これまでの議論の整理)

食品流通の現状と課題

1 食品流通を巡る状況の変化

- ・ 消費者は、食品に対する安全性や安心に対する要求が高める一方で、利便性・簡便性の追求、価格志向が進展。
- ・ 産地においては、出荷先の卸売市場の絞り込み、直接販売等の販路の多元化が進展。
- ・ 加工・外食等の実需者サイドは、継続的かつ安定的な食材調達ルートの開発を進め、生産者との契約栽培や海外からの食材調達が増加。
- ・ 量販店では、こだわり商品の品揃えなどの生鮮食料品のブランド化を進め、食品専門小売店は、後継者の確保難等から減少傾向。
- ・ 中小の卸売市場では、転送依存が高まっている。

2 食品流通の効率化等の基本的な考え方

- ・ 食品流通の効率化は、消費者の利益を第一に考えたシステム構築を最優先すべき。

- ・ 民間の自由な競争環境の拡大を基本として、食品流通の効率化を促進すべき。
- ・ 規制緩和については、食品の安全性、円滑かつ安定な供給の確保など、消費者利便の確保等に配慮した検討が必要。

3 食品流通の効率化等の方向

- ・ ITの進展、物流技術の革新等の積極的な導入・活用を推進すべき。
- ・ コンテナ輸送、規格の簡素化等について検討し、物流の効率化を推進すべき。
- ・ 食品流通の事業者間においてフードシステムとして、効率化、商品供給力等の連携・協調を充実強化すべき。
- ・ 生鮮食料品の流通においても、加工処理品の需要拡大に対応し、生産・流通段階における加工体制を整備すべき。
- ・ 食品卸売業者の事業者間の統合、連携を促進すべき。
- ・ 食品専門小売業は、ネットワーク化、協業化による魅力ある店舗作りが必要。
- ・ 食品の安全確保、トレーサビリティの整備等、食品流通における食の安全・安心への取組をさらに充実すべき。

卸売市場流通について

1 卸売市場流通システムの評価

- ・ 優れたワンストップショッピング性により、我が国の食文化に対応した効率的な流通システムとして機能を有するが、拡大する外食等業務用需要の安定調達への対応が不足。
- ・ 中央卸売市場の価格形成は、全国の指標として機能しているが、新たな流通ルートに対応した多様な価格形成が発生。
- ・ 大量かつ多品目を短時間かつ確実に集分荷する効率的なシステムであるが、こだわり商品の流通への対応の不足。
- ・ 全量引取り、確実な代金決済を保証するシステムとして、国内農水産業にとって重要な販路を提供となっているが、今後、更に食品の安全性の確保の充実強化が必要。
- ・ 消費者ニーズ、産地の商品等の情報の円滑な伝達の対応の不足

2 卸売市場流通の効率化等の考え方

- ・ 卸売市場流通において、食品流通ニーズの変化に柔軟に対応できるよう、民間の経営革新の積極的な発揮の促進を基本とすべき。
- ・ 市場制度の見直しに当たっては、消費者利便の確保や国内農水産業の健全な発展にも配慮が必要。
- ・ 関係事業者について、民間企業として一層の自己責任と意識改革が必要。

3 卸売市場流通の効率化等の方向

- 卸売業者、仲卸及び産地との連携強化による商品情報、開発提案等の機能の充実強化。
- 流通技術の進展を活かした取引の推進。
- 電子商取引等の新しい流通手段の積極的な対応。
- 複数の卸売市場の連携による集分荷力の強化、流通の効率化の促進。
- 中央卸売市場の整備、運営について、民間活力の活用等による多様化。
- 関係業者の収益構造について、取引、サービスの多様化に柔軟に対応し得る経営を実現できるような工夫。
- 仲卸業者の経営の自己管理と経営改善の促進。
- 卸売市場の再編統合に加え、業者間の合併・統合の促進。
- 卸売市場における食品の安全性の確保の徹底、トレーサビリティへの的確な対応

「食品流通の効率化等に関する研究会」(これまでの議論の整理)

食品流通の現状と課題

1 食品流通を巡る状況の変化

- ・ 消費者は、食品に対する安全性や安心に対する要求が高める一方で、利便性・簡便性の追求、~~や~~低価格志向が進展。
- ・ 産地においては、出荷先の卸売市場の絞り込み、直接販売等の販路の多元化が進展。
- ・ 加工・外食等の実需者サイドは、継続的かつ安定的な食材調達ルートの開発を進め、生産者との契約栽培や海外からの食材調達が増加。
- ・ 量販店では、こだわり商品の品揃えなどの生鮮食料品のブランド化を進め、食品専門小売店は、後継者の確保難等から減少傾向。
- ・ 中小の卸売市場では、転送依存が高まっているや、~~コスト増~~。

2 食品流通の効率化等の基本的な考え方

- ・ 食品流通の効率化は、消費者の利益を第一に考えたシステム構築を最優先すべき。

- ・ 民間の自由な競争環境の拡大を基本として、食品流通の効率化を促進すべき。
- ・ 規制緩和については、食品の安全性、円滑かつ安定な供給の確保など、消費者利便の確保等に配慮した検討が必要。

3 食品流通の効率化等の方向

- ・ ITの進展、物流技術の革新等の積極的な導入・活用を推進すべき。
- ・ コンテナ輸送、規格の簡素化等について検討し、物流の効率化を推進すべき。
- ・ 食品流通の事業者間においてフードシステムとして、効率化、商品供給力等の連携・協調を充実強化すべき。
- ・ 生鮮食料品の流通においても、加工処理品の需要拡大に対応し、生産・流通段階における加工体制を整備すべき。
- ・ 食品卸売業者の事業者間の統合、連携を促進すべき。
- ・ 食品専門小売業は、ネットワーク化、協業化による魅力ある店舗作りが必要。
- ・ 食品の安全確保、トレーサビリティの整備等、食品流通における食の安全・安心への取組をさらに充実すべき。

卸売市場流通について

1 卸売市場流通システムの評価

- ・ 優れたワンストップショッピング性により、我が国の食文化に対応した効率的な流通システムとして機能を有するが、拡大する外食等業務用需要の安定調達への対応が不足。
- ・ 中央卸売市場の価格形成は、全国の指標として機能しているが、新たな流通ルートに対応した多様な価格形成が発生。
- ・ 大量かつ多品目を短時間かつ確実に集分荷する効率的なシステムであるが、こだわり商品の流通への対応の不足。
- ・ 全量引取り、確実な代金決済を保証するシステムとして、国内農水産業にとって重要な販路を提供となっているが、今後、更に食品の安全性の確保の充実強化が必要。
- ・ 消費者ニーズ、産地の商品等の情報の円滑な伝達の対応の不足

2 卸売市場流通の効率化等の考え方

- ・ 卸売市場流通において、食品流通ニーズの変化に柔軟に対応できるよう、民間の経営革新の積極的な発揮の促進を基本とすべき。
- ・ 市場制度の見直しに当たっては、消費者利便の確保や国内農水産業の健全な発展にも配慮が必要。
- ・ 関係事業者について、民間企業として一層の自己責任と意識改革が必要。

3 卸売市場流通の効率化等の方向

- 卸売業者、仲卸及び産地との連携強化による商品情報、開発提案等の機能の充実強化。
- 流通技術の進展を活かした取引の推進。
- 電子商取引等の新しい流通手段の積極的な対応。
- 複数の卸売市場の連携による集分荷力の強化、流通の効率化の促進。
- 中央卸売市場の整備、運営について、民間活力の活用等による多様化。
- 関係業者の収益構造について、取引、サービスの多様化に柔軟に対応し得る経営を実現できるような工夫。
- 仲卸業者の経営の自己管理と経営改善の促進。
- 卸売市場の再編統合に加え、業者間の合併・統合の促進。
- 卸売市場における食品の安全性の確保の徹底、トレーサビリティへの的確な対応

